

平成26年度 循環型社会に貢献できる産業人材育成事業に関するアンケート結果

宮城県古川工業高等学校 建築科

■調査概要

対象：建築科3年生37名（男子14名・女子23名）

調査日：平成27年1月30日（金）質問用紙による選択および自由記述回答

■学習の理解・定着について

【数字は%】

		はい	いいえ
1	産業廃棄物の3R、発生抑制・再使用・再生利用（リデュース・リユース・リサイクル）について理解できた。	97.3	2.7
2	解体された木材（廃材）を活用して、次の木工製品を作り出す工程が理解できた。	83.8	16.2
3	建築科の学習を通し、ものづくりの楽しさを学ぶことができた。	100.0	0.0

■持続可能な循環型社会を築くため、また将来世代に豊かな環境を残していくために、あなたが実践している行動について

		はい	いいえ
4	買い物に行くときは、マイバックを持参し、不要なレジ袋をもらわないようにしている。	73.0	27.0
5	照明、テレビ、パソコンなどの使用していない機器の電源をこまめに切るようにしている。	83.8	16.2
6	冷暖房を控え、衣服で調節し、冷暖房器具の使用時間を短くしています。（冷房の設定温度は28℃、暖房の設定温度は20℃）	67.6	32.4
7	水道やシャワーの蛇口をこまめに止め、節水している。	81.1	18.9
8	電気製品や家具は、壊れても修理して使えないかを、まず考えて安易に買い替えをしない。	67.6	32.4
9	ゴミは種類ごとにきちんと分別し、市町村のリサイクルに協力している。	89.2	10.8
10	家族や友人と、学校や地域でできる環境保全の実践活動について、考えている。	32.4	67.6

■本事業における感想（自由記述）

- ・廃材を使ったものづくりを通して、再利用する事の大切さを知った。（女子）
- ・建築科で3年間ものづくりを体験してきて自分の作った物への愛着から、ものを大切にする習慣が身に付いた。（女子）
- ・インターンシップや課題研究を通し、木材について深く学ぶことができた。優しい木の温もりを知った。（男子）
- ・建築科でいろいろな木工機械を使用した授業を受けて、使い方を学び木材を加工する楽しさが理解できた。（男子）
- ・ものづくりの楽しさ、計画することの大切さを学び大きく成長することができた。（男子）
- ・3Rのことを理解し実践していこうと思った。（男子）
- ・初めは、あまり建築に興味がなかったけど、現場見学や体験を通し建築が好きになった。（女子）
- ・製図だけでなく、情報や実習、校外学習、インターンシップにも参加し様々な体験ができて良かった。（男子）
- ・いろいろな方々から多くのご支援を頂きながら、私たちは勉強できていると知ることが出来た。私も将来は、支援する側になりたいと思った。（男子）
- ・今回自分達で設計したものが、初めて実用品となり、寄贈できたことが嬉しかった。使用する人たちの気持ちになって設計できたこと、誰かのために設計するという責任感が芽生え、今後の社会生活で活かせることを学んだ。（男子）
- ・古川工業建築科だからこそ学べたことが沢山あったと思う。体験学習を通し、物事への考え方が大きく変わった。（女子）
- ・普段よく目にしていて建物の奥の深さを知ることができた。（男子）
- ・山林を見学し、森の問題を知ることができた。今後は、少しでも良い環境ができるように取り組んでいきたい。（男子）
- ・廃材でもしっかりと加工すれば再生して違うものに生まれ変わらせることができた。生活環境を大事にして、長く使うようにしていきたいと思った。（女子）
- ・ものづくりの楽しさを学ぶことができた。建築科で学んだことをこれからの生活に活かし社会貢献したい。（女子）